

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	16 - 学 - 8
-----------------	------------

平成 16 年度配分 研究成果の概要

研究名	地域に開かれた「大学付属博物館」紙上構想と展開の研究 --バーチャルミュージアム“産業考古学館”をめざして				
配分を受けた 特別研究費	学長 特別研究費				1,500 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策学 部	文化政策学科	教授	種田 明	研究統括 産業考古学・博物館 学の視点から、国内 外を比較する。
共 同 研 究 者	文化政策学 部	文化政策学科	教授	佐々木 崇暉	地域経済論の視点か ら、大学・産業・博物 館のあり方を考察す る。
	デザイン学 部・	生産造形学科	教授	伊坂 正人	商品学・マーケティング の視点から、地域 の大学・博物館への ニーズをさぐる。
	デザイン学 部・	空間造形学科	教授	渡邊 章瓦	建築デザインの視点 から、地域における 大学・博物館の占め る空間の意味を考察 する。
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: ニューズレター『IA News』Vol.2 同 Vol.3		発表日 (発表 予定日)	平成16年11月30日 平成17年3月1日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

地域に開かれた大学の、開かれた大学博物館をめざして計画された「産業考古学館(仮称)」は、建設計画の一時休止のやむなきにいたった。代わって学内に設置されたのが「産業考古学研究資料室」(研究室1206)である。

本研究の目的は、上記研究資料室のメンバーが近い将来の建設計画再開に備えて、各自の視点からの研究を積み上げハード(建物)よりもソフト(研究論文・データ収集など)を先行させ、「デジタルアーカイブ」・「バーチャルミュージアム」へつなげて行くためのものである。

(研究の実施方法等)

種田および(株)トータルメディア[穴澤氏・高橋氏]により、4回(@1社)4つの企業をインタビュー(聞き取り)調査+工場見学研修した。

(浜松商工会議所には、紹介・仲介(アポイントメント取得等)に関してお世話になった。また、調査見学には院生・学生にも呼び掛け、2回/@1名=2名の参加があった。)

研究会 3回実施 その他電話・メール等により「研究打合せ」を重ねた。
『IA News』の編集会議は、佐々木を中心に6回実施(@3回×2)

(得られた成果等)

「ソフトの大学博物館」として『産業考古学館ニュースレター』を位置付けることにより、研究資料室メンバーのみならず学内の研究・教育を地域にわかりやすく伝え理解してもらう“メディア”を大学はもつことになる。

諸般の事情が許せば、3~4号/年を刊行することも、将来的には可能であろう。インターネットやバーチャル技術は最先端ではあっても、それらに馴染めない人や年配層、印刷されたものを歓迎する人びとは(学会レベルでも)、優に60%を超えている。「紙の」大学博物館への認知度がかなりの広がりをもって向上したと思われる。